

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 AI による要約を行なっています。

令和 6 年 11 月 29 日 苗木区長会・苗木地域まちづくり推進協議会

司会

定刻より少し早いですが、苗木地区の市民と市長との対話集会をはじめます。最初に地域代表としてまち協会長から挨拶をお願いします。

会長

苗木地区は際立った工業や商業はなく、やはり人が住むまちだろうということで、「人の住むまち苗木」というネーミングで活動している。まち協は 4 つの部会で活動し、区長会とまち協が協力しながら進めている。核家族化が進み、3 世代家族が少なくなり、使役の問題が発生している。

ここ 5 年程は問題解決が進まず、組織の陳腐化を感じる。市長のリーダーシップや副市長の活躍を期待している。

司会

次に小栗市長に挨拶をお願いします。

市長

対話集会は市政への市民の意見反映を目的として実施しており、今回で 27 回目となる。苗木地区の課題は市全体の問題でもあり、意見交換を通じて建設的な改善方法を探りたいと考えている。子どもたちや地域の取り組みについて有意義な情報交換をしたい。

司会

今回のテーマは「苗木地域の取り組みと課題」、「人口減少・少子高齢化への対応」。はじめに、使役の問題について説明をお願いします。

参加者

使役の活動期間の長さや負担の大きさが町内会の退会理由になっており、いろいろと対策を講じているが、今後の継続が課題。

地域としては、同じような異なる使役を廃止し、区民の負担軽減をお願いしたい。

司会

次に、使役の中でも民生委員に焦点を当てて話をする。

参加者

民生委員の仕事が複雑・多岐にわたっている現状で、新たな担い手を見つけるのが非常に難しい。民生委員の仕事への理解を深め、関わってくれる人をいかに見つけるか。

司会

これらの課題について市長から意見を伺う。

市長

苗木地区に限らず、人口の減少と働く年齢が高くなる中で、地域の役の担い手も高齢化し、数も少なくなっている。

市としても、なくてはならない役もある中、しっかりと精査をしながら、負担軽減に取り組みたい。

司会

続いて、地域と子どもの絆づくりの取り組みについて説明をお願いします。

参加者

子ども議会の取り組みを通じて、地域リーダーの育成を目指しているが、課題も多く、活動を通じて地域活性化を図りたい。

参加者

「苗木っ子あつまれ〜！」というイベントを昨年から開催している。童歌、木のおもちゃ体験、懐かしの駄菓子屋など多彩な内容で、地域と子どもが交わる場をつくり、年1回から将来的には半年に1回の開催を目指している。この取り組みには市の補助や地域団体の予算も活用している。

参加者

まちづくり講演会では、子ども食堂や3世代交流を含めた内容を中心に開催しているが、核家族が増え、家族間でも日々の絆が減ってきている。子どもに限らず、大人も地域との人たちとの絆、つながりが薄れてきている中、居場所づくりが必要に思う。

参加者

苗木独自の活動として、見守り隊を9月からスタートした。見守り活動の縮小を背景に、PTAとも連携をしながら、現在80人を超えるメンバーが集まった。

できる人が、できるとき、できる範囲で、買い物や散歩の途中の隙間時間を活用して活動している。

苗木地区に限らず、いろんな地域で同じ状態が起きていると思うので、輪を広げ、広く子どもたちの安全を見守っていきたいと思う。

市長

子ども議会は地域を知ってもらい、将来のリーダーを育てる上で意義深い。見守り隊など苗木地区の特色ある取り組みは素晴らしく、他地域にも広めていきたい。

会長

人口減少に合わせて、関係のある団体が複数集まり、回数を少なく、中身の濃いイベントの開催を進めている。イベントありきではなく、イベント開催に向けて各メンバーが集まり、ディスカッションすることが大事。

市長

他の地区では学生を巻き込み、主体的に動いてもらう取り組みをしている。スタッフの方の負担軽減にもつながる。また、移住者が中心となって移住者を呼び込むようなイベントや取り組みをしている地域もあり、地域に関わりのあるいろんな方を巻き込むことがとても大事。

参加者

長野県箕輪村では、子育てのしやすいまちとしてうまくPRしている。中津川市でもホームページでのPRなどに期待する。

市長

中津川市の特色の1つであるリニア開業をチャンスとして捉え、移住・定住につなげていく。